

日本ウマ科学会 2025年度 第1回常任理事会議事録

日 時：2024年11月11日（月）13：30～14：30

場 所：日本装削蹄協会（JRA 新橋分館 4階会議室）

出席者：青木 修 会長
田谷 一善 副会長
高橋 敏之 副会長
加藤 智弘 庶務担当常任理事
半澤 恵 会計担当常任理事
楠瀬 良 編集担当常任理事
近藤 高志 学術担当常任理事
桑原 正貴 国際担当常任理事
平賀 敦 広報担当常任理事
佐々木 直樹 臨床担当常任理事（オンライン参加）
福田 健太郎 事務局長

欠席者：

議 題：

1. 開 会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・加藤 常任理事
2. 挨拶・議事進行・・・・・・・・・・・・・・・・青木 会長
3. 2025年度 理事会・評議員会・定時総会について・・・・・・・・加藤 常任理事
 - ① 2024年度 事業報告（案）ならびに収支決算（案）・・・・事務局
 - ② 監事監査報告・・・・・・・・・・・・・・・・半澤 常任理事
 - ③ 2025年度 事業計画（案）ならびに収支予算（案）・・・・事務局
4. その他

議事概要：

議題 3. 2025 年度 理事会・評議員会・定時総会について

① 2024 年度 事業報告（案）ならびに収支決算（案）

I. 事業報告（案）

- 会員数は 34 名増。
- 奨励賞を帝京科学大学のリングホーファー萌奈美会員に授与。
- 表彰者選考委員会において、馬事文化への貢献が評価され、功労賞に（有）エスティファーム・小見川（元 JRA 調教師）の小檜山悟会員が選考され、臨時の理事会により承認された。
- 第 36 回学術集会において、最優秀発表賞 1 題および優秀発表賞 4 題を表彰した。
- JES 4 号および Hippophile 4 号を発刊配布した。
- ウマ用語集を改訂し、既存会員の希望者および新規会員に配布した。
- 第 36 回学術集会は昨年 11 月に KFC Hall & Rooms で開催された。一般会員 267 名を含む 393 名の参加者を集めた。
- 企業展示は過去最高の 23 社の協賛を頂いた。
- 企業展示会場では伯楽会による絵画展示が行われた。
- 海外渡航支援事業には後期に 1 件の応募があり採択された。
- ホームページのサーバーの安定性を強化した。
- スマートホン用ページの改良や学術集会特設ページを作成し、ホームページ構成を整理した。
- 第 12 回国際馬運動生理会議（ICEEP12）の 2026 年国内開催に向け、開催組織委員会およびワーキンググループとして準備を進めた。

II. 収支決算（案）

1. 収入の部

- 会費収入は前年より増。
- 賛助会員 1 社の納付がなかった。
- 学会参加人数が増え、参加費収入が増加。
- 企業展示収入は過去最高額。
- 臨床委員会 DVD が売り上げを伸ばし、雑収入が増。

2. 支出の部

- PC 購入により備品費が増。
- JES への投稿が減っており、ページ数が減ったことにより出版刊行事業費支出が大幅に減少。
- 本来前年度に支払われる、学会における招待外国人講師の旅費が、2 人とも講演当日の現金支払いを希望したため、講師の交通費が増。

- ICEEP12 関連の支出として、国際学会対応費が発生。内容は大会ロゴ作成費。
- 2024 年度の決算は約 53 万円の黒字。前年より減少も、内部留保はさらに増加。

認定馬臨床獣医師制度会計

- 6 人の受検と 55 人の更新作業を行ったが、本年度の収支は約 7 万円の赤字。

② 監事監査報告

- 特に大きな指摘事項はなく、適正な運営が行われているものと認定された。

③ 2025 年度 事業計画（案）ならびに収支予算（案）

Ⅲ. 事業計画（案）

- 第 37 回学術集会では功労賞を小檜山悟会員に授与する予定。
- 今年の学術集会ではクレジットカード決済による事前登録制を採用。本年度も一般非会員で参加した者の希望者全員を年会費なしの会員とし、入会特典を付与する。
- 文化芸術特別講演として、馬の油絵画家である長瀬先生の講演を行う。
- 臨床委員会企画招待講演としては、アメリカの整形外科医である Dr. Santschi 氏に若馬の整形外科に関する講演をしていただく予定。さらに、国内 4 名の演者より症例を紹介していただき症例検討会を行う予定。
- 功労賞を受賞された小檜山先生には、特別にご講演をしていただく予定。
- 認定馬臨床獣医師関係では、本年度も例年通り認定試験を実施し、さらに今年度に 5 年の更新期限を迎える者の更新手続きを行う。
- ICEEP12 の開催に向けて、引き続き開催組織委員会およびワーキンググループとして活動を行う。

Ⅳ. 収支予算（案）

1. 収入の部

- 正会員会費収入は、現国内会員数の約 95%である 865 名×5,000 円で算出。
- 賛助会員は TAW が加わって 21 社 22 口となる予定。
- 学術集会参加費収入は、10 月 31 日現在の登録者数 186 名の 1.1 倍の会員参加（204 名）があると想定。

2. 支出の部

- 事務担当従事員が通年で1名となるため、人件費を減額。
- コロナ後の会議増を見込み、会議費を増額。
- JES・Hippophile 編集委員会におけるアイペックの管理費を支払うことになったため、出版刊行事業費の会議費を増額。
- 講師交通費は学術集会事業費は国内講師、臨床委員会事業費は次年度の講師の旅費を計上。
- 学術集会会場費の増額、参加登録システムの外注費用がかさみ、大会開催費は大幅増。
- ICEEP12 関連収支は別会計となることから、国際学会対応費は計上しない。

認定馬臨床獣医師制度会計

- 受検料収入はこれまでの実績を鑑み、6名受験×15,000円で想定。
- 更新料収入は更新対象者15名の7割が更新すると想定。

議題 4. その他

◇ 認定馬臨床獣医師制度について

- 日本獣医師会は9月に、認定・専門獣医師を認定する団体の要件について評価基準を定めた。これに先立ち、青木会長、佐々木常任と、日本獣医師会側とで8月に協議を行った。日本獣医師会側には、このたび獣医師会内に組織された認定・専門獣医師協議会委員長が同席した。日本ウマ科学会は専門医を認定する団体として要件をほぼ満たしている。しかし、「法人格の保有」という要件を満たしておらず、このままでは認定団体となることは難しい。
- 今後は現在任意団体の日本ウマ科学会の法人格取得の是非について関係者間で議論を進める予定。

◇ ICEEP の準備状況

- 先月 ICEEP 国際委員 3 名が来日し、進捗状況を確認した。具体的には、国際委員に対し、大会国内委員である5名と JRA 3 名が協議を行い、現在の開催計画が了承された。
- 主な確認事項は以下のとおり。
 - ① 会期は 2026/10/26 (月) ~10/30 (金)。会場は都市センターホテル。
 - ② 10/25 にウェルカムレセプション、10/31 に東京競馬観戦ツアー。
 - ③ これまでの大会では国際委員がスポンサー窓口になっていたが、今回は国内委員が窓口となる予定。国際委員からはアドバイスを受ける。

(14:30 終了)